



画像2

来館者はタマゴ型の専用デバイスを首に下げて館内を回り、未来社会を支えるさまざまなエネルギーの可能性について楽しく学ぶことができます。デバイスは、展示と連動しているいろいろな色に光ったり、ふるえたりして、来館者の体験を手伝います。

展示では次世代エネルギーとして注目される核融合や電源コードを使わずに電気を供給する無線給電といった約30の未来のエネルギー技術を紹介します。例えば核融合では、卓上に投影された光る玉を手で寄せ集め、うまくくっつけられるとデバイスが発光。原子核同士が融合して膨大なエネルギーを生み出す核融合の原理を体感しま

タマゴ型デバイスで未来体験

「ゴたち」を展覧します。「電力館可能性のタマゴたち」は、エネルギーに関するたくさん「可能性のタマゴ」を体験できるパビリオンです。会場東ゲートを入ると目の前に現れる、大きなタマゴ型の外観が特徴。外殻にはさまざまな平面を組み合わせた「ポロノイ構造」を採用し、外側はシルバーの膜で覆っています。天候や時間帯によって見え方が多様に変わること、未来に向けた多くの可能性を表現し、自然や周囲の環境とも調和します【画像1】。



画像1

©電気事業連合会

2025年大阪・関西万博



開催期間 | 2025年4月13日(日)
- 10月13日(月) 184日間
開催場所 | 大阪 夢洲(ゆめしま)

電気事業連合会、大阪・関西万博に「電力館 可能性のタマゴたち」を展覧

万博とは？

「万博」は世界中からたくさんの人やモノが集まるイベントで、地球規模のさまざまな課題に取り組みために、世界各地から英知が集まる場。1970年に日本、そしてアジアで最初に開催された大阪万博(EXPO'70)は日本の高度経済成長をシンボライズする一大イベントでした。

2025年大阪・関西万博は、2005年に開催された愛・地球博に続き、20年ぶりに日本で開催される国際博覧会です。

電力館 公式サイト



<https://www.fepc.or.jp/sp/expo2025/>

電気事業連合会 公式 X



<https://x.com/denjiren>

information

私たちがお迎えます。

スタッフのユニフォームはパビリオンの外観と調和する、グレーをメインとしたモノトーンカラーで統一。さまざまな年代、性別、体形のスタッフそれぞれが異なる表情のユニフォームを着用し、パビリオンのテーマであるさまざまな「可能性」を表現しました。



大阪・関西万博バーチャル会場内の「電力館 可能性のタマゴたち」

今万博では、世界中からスマートフォンなどで気軽に参加できる「バーチャル万博～空飛ぶ夢洲～」も開場します。バーチャル電力館では、リアルパビリオンのコンセプトと同様に、来館者はそれぞれ「可能性のタマゴ」を持ち、バーチャル空間内に配置されたさまざまな未来のエネルギーを体験します。エネルギーを集めることで自分だけのキャラクター「エネたま」を生み出し、一緒に探検したり、アバターアイテムを獲得するなど、バーチャル空間ならではの楽しみ方もできます。「バーチャル万博アプリ」は4月リリースを予定。詳細は公式サイトで。



す。無線給電は、シューティングゲームのように離れたところから画面に映し出される自動車などに電気を送り、動かします。エネルギーの特性や面白さにフォーカスした体験展示は、子どもから大人まで、全身を使ってゲーム感覚で楽しめます【画像2】。

エネルギーの可能性のタマゴ

電気事業連合会は、万博会場の13の民間パビリオンの一つとして「電力館可能性のタマ

ゴたち」を展覧します。「電力館可能性のタマゴたち」は、エネルギーに関するたくさん「可能性のタマゴ」を体験できるパビリオンです。会場東ゲートを入ると目の前に現れる、大きなタマゴ型の外観が特徴。外殻にはさまざまな平面を組み合わせた「ポロノイ構造」を採用し、外側はシルバーの膜で覆っています。天候や時間帯によって見え方が多様に変わること、未来に向けた多くの可能性を表現し、自然や周囲の環境とも調和します【画像1】。

会場のシンボル・大屋根リング

大屋根リングは会場全体をつなぐ主動線となっており、来場者は屋根の上を歩いて回る

大阪・関西万博公式キャラクター「ミャクミャク」



©Expo 2025

細胞と水がひとつになったことで生まれた、ふしぎな生き物。赤い部分は「細胞」で、分かれたり、増えたりする。青い部分は「清い水」で、流れる様に形を変えることができる。

今まで「脈々」と受け継がれてきた私たち人間のDNA、知恵と技術、歴史や文化をこれからも「脈々」と未来に受け継いでいってくれるはず。そんな希望を込めて「脈々=ミャクミャク」と名付けられた。